

今月から本格稼働

FLAM

大型木造向け部材の供給力強化

福島県高度集成材製造センター（FLAM）が、今月から本格稼働を開始した。既に、中大規模木造向けの中・大断面集成材の製造や加工が始まっており、来年度にはフル生産水準まで引き上げていく方針だ。

FLAMは福島県双葉郡浪江町が2019年からヨーロッパ型の中・大断面集成材の量産型工場を目指し、製材工場と集成材工場、製品倉庫、事務所などの整備が進められた。昨年、機械設置を完了し、運営を委託されたウッドコア（双葉郡、朝田宗弘社長）が本格稼働に向けた準備を進めていた。

当初は昨年度中の本格稼働開始を予定していたが、欧州メーカーOミ×12材までの大断面集成材を量産すること、大型木造向け部材で価格競争力のある材料の供給を目指す。JAS認証も、今年



追加導入されたメガプレス

面集成材を量産すること、大型木造向け部材で価格競争力のある材料の供給を目指す。JAS認証も、今年

6月24日付で、杉と国産力ラ松で小・中・大断面それぞれの低ホルムアルデヒド構造用集成材で取得している。さらに、桧やRウッドの追加申請も進めており、9月末ごろの取得を見込んでいます。

これは、顧客からの要望への対応や強度を求められた際に国産力ラ松以外の選択肢を確保しておくことが目的だ。

現在の稼働状況は、藤寿産業（同郡山市、西村義一社長）が受注した物件向け部材の製造・加工が入っている。今月と来月の集成材生産量は月1000〜200立方メートル程度を予定しており、10月以降は月500〜600立方メートルを見込んでいます。藤寿産業専務でもある相澤貴宏は、藤寿産業で対応する予定だったが、物件数の急増を受けて、FLAMでもある程度2次接着対応を可能にするためにメガプレスを設置した。

ウッドコア取締役は「来年度以降、全国から大型木造プロジェクトが集まっており、FLAMがフル稼働しても間に合わない懸念があるほどだ」と話す。こうしたなか、今年

2月には12材タイプの2次接着用メガプレスも導入。当初は耐火集成材などの製造で2次接着が必要な場合には、藤寿産業で対応する予定だったが、物件数の急増を受けて、FLAMでもある程度2次接着対応を可能にするためにメガプレスを設置した。

日刊木材新聞

発行所 日刊木材新聞社
〒135-0041 東京都江東区冬木234
編集・営業 ☎03-3820-3500
FAX03-3820-3519
総務・販売 ☎03-3820-3511
FAX03-3820-3518
https://jfpj.jp/
eメール info@n-mokuzai.com
購読料 1ヵ月 6,200円
©日刊木材新聞社 2022
本紙の無断複製（コピー・PDF）配布は、著作権の侵害にあたり違法です。

時代を拓く 木の力
木材建材ウィフリー
Japan Lumber Reports
電子版

『国産材活用事典』 好評販売中！



日刊木材新聞社